第3章 基本構想における分野ごとの目標像

将来像「人と自然が響きあう“ハーモニーガーデン 上里”」を目指して、福祉・健康、都市基盤、生活環境、産業振興、生涯学習、行財政の6つの分野において、目指す目標像を掲げます。

1 支えあい、生きがいあふれる健康のまち

すべての住民が、心身の健康増進に積極的に取り組むことが重要であることを認識し、日々、楽しく実践しているため、生活習慣病予防や介護予防の効果が十分に現れています。

まち中でボランティアが積極的に活動し、高齢者や障害者等を地域で見守り、地域で子どもを育て、住民一人ひとりがお互いに支えあい、ともに生きがいを持って生活しています。

安心して子どもを生子、育てる体制が整っていて、子育て不安に悩むこともありません。病気や要介護状態になっても、安心して医療や介護が受けられます。障害があっても、充実した生活支援を受けながら、自立した生活を営み、積極的に社会参加しています。医療保険や介護保険等の社会保障が健全に運営されています。

私たちは、そんな、「支えあい、生きがいあふれる健康のまち」づくりを目指します。

2 充実した都市基盤のまち

神保原駅周辺を中心として、徐々に商店や飲食店等の立地により、まちの賑わいがでてきています。

住民一人ひとりが資源、エネルギーを循環・再利用する生活様式を積極的に取り入れています。

町内一円に安全で円滑に通行できる道路が整備され、歩道や街路灯、ポケットパークをはじめとする多くの公園など、人にやさしい空間が広がり、安心して買い物や散歩が楽しめます。

すべての住民が、互換性の高い情報通信媒体を使って、場所や時間の制限なく、ストレスなく、安価に、情報の利活用や、コミュニケーションができ、大都市に負けない情報通信環境が整っています。

私たちは、そんな、「充実した都市基盤のまち」づくりを目指します。

3 安全で快適に暮らせるまち

恵まれた豊かな自然環境を、住民、事業者、行政がお互いの役割分担のもと、受け継いできた自然を後世にわたって保全できる仕組みが整っています。また、失われた自然を再生する取り組みも進められてきています。

自然環境や歴史的景観と調和した居住環境が整備され、下水道等も整備が進み、快適に生活が営まれています。犯罪や交通事故がなく、災害の予防活動が入念に行われているため、安心して暮らすことができます。

私たちは、そんな、「安全で快適に暮らせるまち」づくりを目指します。

4 活力に満ちた産業創造のまち

時代の変化に対応できる柔軟な経営感覚と、常に新しいものに挑戦していく経営意欲を持った担い手が、農業・工業・商業といった分野の枠にとらわれず、新しい分野に積極的に進出し、国際競争や産地間競争を克服しています。

上里サービスエリア周辺地区整備事業地区では、町内事業者が多く参入し、地元農産物の直売所や物産館、レストラン、レクリエーション施設など、連日観光客で賑わっており、町の観光拠点となるとともに、地元産物の大きな販路となっています。

知識や技能を活かして多彩に活躍できる職場があるので、U・Iターン¹で多くの若者が流入しています。多様な業種で培った経験をもとにコミュニティ・ビジネス²を立ち上げる人も増えています。

集落営農など営農体制の強化が進み、意欲ある農業後継者が町の農業を担っています。こうした人材を確保、育成していく仕組みが、上里町には整備されています。

私たちは、そんな、「活力に満ちた産業創造のまち」づくりを目指します。

1 U・Iターン・・・Uターンとは、出身地から進学・就職等により転出した者が再度出身地にもどること。

Iターンとは、出身地に関係ない地域に移り住むこと。

2 コミュニティ・ビジネス・・・地域の人々が、地域の未利用資源（労働力、原材料、技術力など）を活用して行う小規模ビジネスで、利益の追求に加え地域課題の解決をも目指す。

5 のびやかに学び楽しむまち

子どもから高齢者まで、すべての住民が、それぞれの興味や関心、体力に応じて、自主的に学習活動やスポーツ活動を楽しみ、交流し、その成果がまちづくりに十分に活かされ、町の財産となっています。

学校教育の現場では、信頼と尊敬に満ちた教育が推進されており、上里を巣立つ子どもたちも、上里ですずっと暮らしていく子どもたちも、みな、郷土への誇りと人を思いやるやさしさを持ち、生きる力と生涯にわたって学び続ける意欲をもっています。

住民一人ひとりが互いに個人として尊重しあい、差別や偏見のない積極的な交流活動を進めるまちづくりが進められています。

有形・無形の伝統的な文化遺産が大切に継承されるとともに、地域の個性を活かして、日々新たな文化が創造され、住民一人ひとりが、そうした上里の文化に誇りを持って生活しています。

私たちは、そんな、「のびやかに学び楽しむまち」づくりを目指します。

6 住民と行政がともに創るまち

地方分権が進み、住民一人ひとりが、まちづくりに積極的に参加し、まちづくりを自分自身の問題としてとらえ、住民と行政が共に考え、共に活動する仕組みができ、多くの住民がまちづくりに意欲を燃やしています。

目的と効果の観点から事務事業の見直しを行うとともに、住民から親しみを持って迎えらる接客態度や行政事務の取扱い時間の延長など、民間の知恵と工夫が至るところに導入され、洗練された行政運営が実現しています。また、行政が担ってきた業務の民間移行が進み、地域の新しい雇用創出効果も生み出しています。

私たちは、そんな、「住民と行政がともに創るまち」を目指します。